

# 電話の受け取り学習

## ～伝言メモを活用した聴く力、話す力の育成～

小出特別支援学校 中学部2年 武藤哲也 桑原汐里

### 授業の必要性

実態

- ・失礼にならないか電話対応に不安。
- ・知らない人、見えない相手への不安。
- ・正しく聞き取れない。
- ・経験が不足。
- ・内容を覚えられず伝えられない。

目指す姿

家に誰もいない場合でも電話に出て、用件をメモし、家の人に伝えることができる。

電話に出る自信



学習内容

- ・基本的な電話の応答、定型文、電話マナー。
- ・電話の扱い方。
- ・様々なパターンの受け答え経験。
- ・電話をうける際の防犯意識。

### 指導プログラム

授業の流れ

ロールプレイ、  
自己評価、他者評価



<条件の組み合わせ>

| 電話   | 家人 | 相手 | 対応                      |
|------|----|----|-------------------------|
| 模擬電話 | 在  | 知人 | 取り次ぎ                    |
|      | 不在 | 知人 | メモ「いつ・誰が・誰に」            |
| 校内電話 |    | 他人 | メモ「いつ・誰が・誰に・何を」<br>(伝言) |

易

難

### 支援の工夫

生徒個々の課題に応じた  
メモ用紙

○必要な情報を正確に得るため

- ・レ点チェック式
- ・○付け式
- ・記入式

<条件の組み合わせ>に  
対応した、検定表から取り出し  
たチェック表での評価

- 課題を明確化
- 適切な自己評価、他者評価

校内電話を使っでの  
実践に近い演習

○スキルの定着

### まとめ

**成果**：電話への不安や抵抗が軽減した。

**課題**：・練習パターン以外の対応に不安。

- (多い情報量、聞き取りにくさ)
- ・生徒の課題に応じた学習場面の設定の工夫。  
(課題＝聴く・書く・伝える、それぞれのつまづき)

今後の展開

- ・家庭と連携して実践を積む
- ・よりきめ細やかな課題の見極めと場面の想定